合志楓の森中学校だより

楓の森

R5.4.21（第1号）
文責：渕上 佳宏

「協働」と「貢献」をキーワードに

新年度がスタートして、二週間が経ちました。ご承知のとおり、合志楓の森中は、開校三年目となり、令和五年度は、三学年が一回りし、学校が一つの形として完成すると言ってよいでしょう。転入したスタッフも含め、教職員一丸となって教育目標実現に邁進して参ります。本年度もよろしくお願いいたします。

ところで、子どもたちが生きていくことになる近未来社会は、グローバル化、人工知能の進化などにより、変化が激しい予測困難な時代、すなわち「ソサイアティ５・０」になると予想されています。また、この時代には、現在ある仕事の多くが消滅し、子どもたちの半数近くが現在存在していない職業に就くことになるとも言われており、今、学校で教えていること（特に知識）は、将来の社会で通用しないのではないかという指摘さえあります。

それでは、近未来を見据え、学校は何に取り組むべきなのでしょう？　現実問題として、中学校では三年時に進路選択（その多くが受験）が控えています。そのため受験学力向上のための取組を避けて通ることは難しいでしょう。しかし、いわゆる「良い高校」や「良い大学」に合格したからと言って、それだけで成功した人生が保障されているわけではありません。事実、「大卒ニート」と呼ばれる若者の割合も年々増加しており、受験学力とは異なる、いわば「人生をたくましく生き抜くための学力」が、求められるのではないでしょうか。

私（校長）は、ＡＩやＩｏＴがいかに進化しても、人が他の人と繋がって生きていくこと、人が社会の中で生きていくことは変わらないと思っています。むしろ、ＡＩやＩｏＴが進化したスマートな世の中になるからこそ、必ずしもスマートとは言えない、いわば「人間らしさ」というレンズで物事を見ることが大事だとも考えています。

このようなことから、学校教育目標は、**「夢と誇りを持ち、自分らしく主体的に行動できる生徒の育成」**を継続することにしますが、今年度、新たにキーワードとして、**「協働」**と**「貢献」**を掲げ、学校経営に取り組むことにしました。ポストコロナのステージとなり、まずは菊池恵楓園との協働をどう図っていくかが、今年度のポイントです。また、校区内外の教育機関や公的・民間組織等との協働も模索し、すでに動き始めている取組もあります。そして、生徒たちの主体性を生かしつつ、とりわけ「人権尊重」の視点から、地域貢献・社会貢献を行っていきたい。引いては、そのことが生徒たちの「人生をたくましく生き抜くための学力」の育成につながると思っています。

保護者の皆様、地域・関係機関の皆様、引き続き本校教育にご理解・ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

始業式の校長講話から

二学期制の正式実施

合志市では、これまで試行ということで二学期を実施してきましたが、昨年度末の教育委員会議を経て、合志市学校管理規則が改正され、菊池管内の他の市町と同様に、二学期制が正式実施されることになりました。

合志市校長会では、二学期制のメリットを活かすべく、特に次の三点を共通理解し、効果的に実施していくよう確認しています。

① 評価の精度を上げる

評価期間が長くなる分、定期テストはもちろんのこと、日常の観察記録等も十分踏まえた評価を実施します。

② 生徒と向き合う時間を増やす

二学期制により生み出された時間を、児童生徒一人一人に向き合い、寄り添うために活用します。

③ 長期休業を学力向上等に活かす

長期休業前に教育相談を実施し、学期末の評価へ向け、学力向上等のための助言や励まし（個別指導）の機会にします。

「年に二回の通知表では、子どもの学校の様子が分からないのでは？」というご懸念を聞くこともありますが、学校の様子は、まずは各家庭の会話の中で、お子様から直接、聞かれるのが一番です。本校ＨＰは、そのような会話の話題提供にもなるよう、学校生活の様子や情報を随時、掲載しています。ぜひ、学校の各活動場面に、我が子がどんな意識や態度で臨んだか尋ねてみてください。そして、認め、褒め、励ましていただければ、お子さんの自己有用感や自尊感情が高まること間違いなしです。

学校HPのQRコード